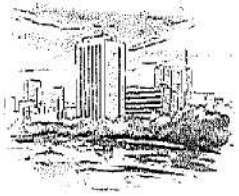
優しさ 名刺に込めて

たまてばこ



差し出す名刺には、大きく刷り込まれた「ありがとうございます」の文字。素材もバナナの茎であったり、廃ペットボトルであったりして、精神障害者らの支援団体が作成した点字も載せている。

福岡市でカーテンなどの販売やリースを手がける中島章寿さん(51)が営業でそんな名刺を使うようになったのは、単なる商売道具でなく、人と人のつながりを大切にするきっかけにしたいと思うからだ。

「あの物件はどうなっているんだ」「一日何やっていたの」。数年前まで中島さんはカーテンの販売・リース会社で20年のキャリアを積み、部下をこう叱咤する売り上げ至上主義だった。

2010年2月、上司に呼ばれた。上司と衝突し折り合いが悪くなっていた。だから配置換えくらいはあるなとは覚悟していた。だが「もう来なくていいから」。突然の解雇通告だった。その半年前まで営業課長を務め、販路拡大に貢献してきたという自負もあったのに――。

息子はまだ高校1年。近所の目も気になる。履歴書を買って書こうとしたが、手が動かない。「今更何やってるんだ」。丸めてごみ箱に捨てた。悶々とした思いをかき消したのは、携帯電話にかかってきた一本の電話だった。

「カーテンを売ってくれないか」。営業マン時代の得意先の病院からだった。

「客にもメーカーにも知り合いがいる。やっぱりこの業界でしか生きていけない」。貯金を取り崩し、手探りで会社を起こした。

大手には価格競争ではとてもかなわない。だからこそ人と人のつながりを大切にしながら営業活動しよう。靴底を擦り減らして回るうち、リストラされたことを打ち明けても仕事を頼んでくれる客がポツポツと現れた。

札幌市の印刷会社が作っていた環境に優しい名刺を使い始めたのもその頃だ。出会いを大切にしたい、という思いをこの名刺に込めた。昨年からは自社でも名刺の販売を始め、売り上げの一部は九州盲導犬協会に寄付している。普通の名刺に比べれば割高だ。だが、「環境や人への優しさを出会った人と共有したいんですよ」。日に焼けた顔をほころばせた。

【関谷俊介】

ライオンが「ワン」

中国の動物園 ほえて犬とばれる

中国の動物園でライオンのおりに入れられた大型犬＝12日、AP

【上海・隅俊之】中国河南省深河市の動物園で、「ライオン」として展示されていた動物が実は大型犬の「チベタン・マスティフ」だったことが分かり、物議を醸している。ライオンなのに「ワンワン」とほえ始めたために発覚。担当者は「ライオンは繁殖のために外部に貸し出し中だった」と釈明したが、インターネット上などで「子供にウソを教えるのか」と失笑を買う結果になっている。

中国メディアによると、ネット上で告発した女性は、6歳の子供にライオンがどんなふうにほえるのかを事前に教えていた。ところが「アフリカライオン」と説明文のついたおりに行くと、中の「ライオン」がワンワンとほえたため、子供が「お母さんは僕をだましている」と怒りだしたという。チベタン・マスティフは動物園の職員が預かっていた知人の飼い犬で「危ないから空いていたおりに入れた」という。

チベタン・マスティフは中国チベット地方原産の大型犬で、体高60センチ以上、体重80キロにも達する。ライオンのたてがみにも似た毛足の長い個体が好まれ、中国の富裕層の間で人気があるという。

この動物園ではほかにも、キツネとみられる動物を「国家一級保護動物・金銭豹」と紹介するおりに入れていたという。

新大阪行きの新幹線を見送る祖母（左手前）に手を振る孫たち
＝福岡市博多区のＪＲ博多駅で17日午後１時49分、三村政司撮影

ルだ」

17日の世界陸上選手権男子マラソンで日本人最上位の5位入賞を果たした中本健太郎選手（安川電機）。レース会場のロシア・モスクワから遠く離れた出身地の山口県下関市や北九州市八幡西区の安川電機本社では、「よくやった」「次こそメダルだ」と大勢の人たちが感動と興奮に包まれた。声援に応えるよう、日本陸上チームのレース後のインタビューで

7時ごろ食店に観戦。団での中本し、通られる

■超音速

宇宙は17日、16日に機を高させる実ラブルがトから発表査・対策せ、原因

試験に伴う衝（ソニックさくなる設計、実・3（音で飛行中る計画が達成できは全長約約1トンい。気